
ぶっちゃけ腑に落ちないんだけど……。

河野夜兎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ぶっちゃけ腑に落ちないんだけど……。

【Nコード】

N1786J

【作者名】

河野夜兎

【あらすじ】

とある男女のひととき。ちよつと面倒クサイ内容かなあ…（実はとある人と話をしたりリアルな会話内容です）

※皮肉さたっぷりな感じの作りになっているので、嫌いな人はスルーでヨロシク（特に女子には結構ムカつかれる内容かと（笑））

腑に落ちない事を言う私の彼氏。

付き合って三ヶ月になるじゅんぺいの、日を増す毎にエスカレーターする蘊蓄（能書き？）に、正直いくら温厚な私でもちよっとムカつく時もある。

じゃあ別れば？って思うでしょ？

でもね、何て言うのかなあ…。

何故だか不思議と別れたいとは思わないんだよね…。

根は決して悪い奴ではないんだよ。ただモノの言い方がいちいちカンに障る。

事あるごとに、じゅんぺいが私に放つ口癖。

「は？お前バカじゃね？」

スカシた感じで鼻を鳴らして失笑。そのうざったい言葉を日に何度となく私に放つ。つーか私の意見はみんな胸を張り全否定。

例えば、この前だって

「私ね、今日職場で美那ちゃんに「ゆりちゃんてなんか長澤まさみに似てるよね」って言われちゃった♪」

芸能人に似てるって言われたの初めてだから、ちょっと嬉しくてじゅんぺいに声を弾ませてそう言ったら、

「は？お前、バカじゃね？」

まるで日本刀で袈裟がけに切られたかのような鋭い第一声の後、

「髪型だけ長澤まさみだって遠回しにイヤミ言われてる情けない自分を過大評価してウカレてるってぶっちゃけどうよ？」

じゅんぺいは鼻を鳴らして失笑した。

「大体なあ、女が女を褒めるのは、その褒めた女が自分よりランクが低いと認識した時のみだ。

女ってのは、自分より顔やスタイルが勝ってる奴には敵意を剥き出しにする生き物だと俺は思うぜ。」

「……。」

沈黙する私にじゅんぺいは更に言い放つ。

「考えてみる。女が女に好かれるタレントは、男から見ればそうたいたことない見映えが多い。」

「そ、そんな事ないよ」

「いーやあるね。ありありだ。それを証拠にグラビアアイドルは断然女に嫌われる傾向にある。」

じゅんぺいは語る。

「例えばだ。ほしのあきとモデルのSHIHO。あの二人は同級生。しかし女子からの支持率が圧倒的に高いのはSHIHOだ。それは何故か？」

「そ、そりゃあSHIHOはモデルさんだし、ほんわかしてかわいいし……」

「ほら、そこだよ。ほんわか可愛いって女の深層心理トラップな。」

「深層心理トラップ…？」

「ほしのあきの可愛さは男ウケする可愛さプラスナイスバディーだから、女にはどこか憎たらしいとする深層心理が働くんだよ。」

「……。」

私、沈黙。

「ほんわか京都弁な安田美沙子だって、背の小さいモデルの神戸蘭子だってそうだ。女子には鼻につくムカつく可愛さ。でも男子には非常にキュートだ。」

う…、ちよつと納得。

「アツキーナだって可愛いのに女子には不人気。同じキャラならユツキーナときたもんだ。それは何故かな？」

「……だってユツキーナは——」

「キャピットとした可愛さを全面に出さないからだろ？という事は男にあまりウケないと視聴者は思うわけだ。つまり、女が嫌うとされる女は、男にウケる仕草を巧に操る術を身につけていると言うわけだ。」

「…そうかなあ…？」

「事実、森三中が女子にブサ可愛いともて囃されている事が動かぬ証拠。大体女子が可愛いと言う言葉には、人を見下すって言う女のエゴも隠れている。実際リアルでもどうよ？めっちゃ可愛い女子は合コンには中々誘われない。しかも、合コン相手にマジターゲッ

トがいたら尚更男ウケする可愛さ溢れる女子は廃除される傾向にある、違うか？」

…うう…、た、確かに。

「だから、女子が女子の容姿を褒めるのは七割は私のほうが勝てるしと思って褒めていると思うべきだ。後の3割はやっぱり感じて。だからお前が長澤まさみに似てるって言われたのは実は褒められたんじゃないくて、格下にはそう褒めてやらないと気の毒だと思われるからだ。」

…なんか悲しくなってきた。

「その点、俺は偉いと思うぞ。だって、俺はお前が別に不細工だろうがなんだろうが、お前の事が好きなのだし。お前の取り柄だっ
てちゃんと認めてるしな。」

「私の取り柄？」

「ああ。お前の取り柄のEカップ。そこはかなりの確率でいいところ。」

「…それって、おっぱいが大きけりゃオールOKって風に聞こえるんだけど…。」

なんか腑に落ちない。

「おっぱいは天からの授かりモンだぞ。豊胸手術で偽モノを求める事なく、自然と育つ乳は絶大なる魔力だ。」

「…そんなモンなの？」

「ああ、そんなモンだ。だって、俺、貧乳はパスだもん。顔がよく

て、スタイルがいくらよくても、Aカップは戴けねーし。」

「…それって、かなり個人的な好みの問題だよね……………」

「個人的な好みの問題で何が悪い？俺が好きで付き合ってるのはお前なんだから、個人的好みはおおいに結構。」

「……性格とかそういうのは？」

「あのなあ、性格ってのは、長く付き合っていかなきゃ理解できないもんだろ？大体人間の第一印象ってのは性格じゃなくて、見た目だよ。」

「それ、酷くない？」

「は？お前バカじゃね？」

また出た…。

「性格の良し悪しなんて、人間が瞬時に見抜くなんて事できるワケねーじゃんよ。性格っつーのは、付き合いの中で理解してくモンじゃね？」

「でも、ほら…、第一印象で、この人優しそうだなあとか、しっかりしてそうだなあとか——」

「甘いな。そうやって人の表面だけ見てる奴って必ず後でこう言うと思うよな？『あの人がそんな人だとは思わなかった』とな。」

じゅんぺいはやれやれと深いため息。

「人間はな、不思議と初めは我慢するんだよ。なるべくいい人を演じようとする。でもそんな偽りの自分が疲れてくる。友人だろうが、

恋人だろうが、慣れればガンガン自分が出る。すると、こんな人だなんて思わなかったと言うがつかりの矛盾感が現れる。ま、逆もしかりだけどな。へえ、こんな部分もあったんだと妙に頷きたくなる事もあるだろう？」

じゅんぺいは頷きながら喋る口を止めない。

「だから、俺は人間なんてどこか性格悪い部分があると認識して人付き合いをしてる。頭ん中でそう思っていないと、いざとなりゃーがっかりし放題だからな。」

「……。」

「んでもって、大概人間は悪い部分ばかりじゃなくて必ず良い部分を持つてる。それに気付けば実はほんとに悪い奴は世の中にそうはいないって事もなんとなくだが理解できる。」

「…:そうかなあ…?」

「ああ、そんなモンだ。じゃなきゃ、俺とお前が恋人同士だって事は成立不可能だ。だって、俺、半端なく性格悪いしな。あ、勿論いいところもあるぞ。」

じゅんぺいは、あははっと笑う。

「ま、こんなに性格の悪い俺と一緒にいるってのがお前の良さとも言えるけどな。」

じゅんぺいはそう言うのと、

「じゃ、そういう事で。ヤル事ヤツとこうか。」

そう笑い私の唇を塞ぎ、切ない吐息混じりの濃厚なキスと共に、

シャツの中へと手を忍ばせるのだ。

そんなじゅんぺいに抵抗しようと言う気持ちは全然なくて…むしろ、エスカレートしてどんどんじゅんぺいを受け入れてしまう衝動は止まらなくて。

でも普段はやっぱり腑に落ちない事も沢山あって…。

もやもやするんだけど、ベッドで絡み合い欲を満たしてしまえば大概忘れてしまう。

ま、私も単純な性質なんだなと思っておく事にするか。

（後書き）

結構偏見的な内容よね？でもいいや。考え方は千差万別だし。

話の好みも千差万別って事で。

ま、元々はバカ女とバカ男の酔っ払い談議がベースですので、勝手にほざいとれやと言う事で…（笑）
勝

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1786j/>

ぶっちゃけ腑に落ちないんだけど……。

2010年10月10日16時55分発行